

キャラクター名
プロキオ

プレイヤー名

種族	コボルド	種族特徴	種の限界/軽視/小さな匠/弱点(魔法+2)		
生まれ	斥候	性別	オス	年齢	7
冒険者Lv	4	経歴	友人、恋人を食べた		
経験点	40		片親、あるいは先祖が人族 人族に懐柔(買収)された		

技	9	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
		器用度	9			18	3
体	4	敏捷度	9			18	3
		筋力	2			6	1
心	5	生命力	3	1		8	1
		知力	7			12	2
		精神力	11	2		18	3

技能	Lv.	技能	Lv.
フェンサー	1		
スカウト	4		
レンジャー	1		
セージ	1		
ミスティック	3		

戦闘特技		IB30	p
スローイング		IB30	p
ディフェンススタンス		IB37	p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p
			p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔神語	○	
妖魔語	○	

練技/呪歌/騎芸/賦術	
幸運の星の導きを知る	
幸運は勝ち戦を授ける	
星は剣を導く	

名誉アイテム	点数
名誉点所持	29 /合計 29

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラブラー	0			
フェンサー	1	4	4	2
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク 筋力 回避力 防護点		
鎧	クロスアーマー		1	2
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				
回避技能	フェンサー	合計値	4	2

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マレット	1H投	1	1	2d+ 5	-1	2	6										
				2d+													
				2d+													

一般装備品	(消耗チェック)
冒険者セット	○□□○□□
スカウト用ツール	○□□○□□
ミスティックロッド	○□□○□□
ポーションボールx14	○□□○□□
ヒーリングポーションx10	○□□○□□
アウエイクポーションx3	○□□○□□

ファニーアポーション	○□□○□□
救命草x5	○□□○□□
魔香草x5	○□□○□□
マスク	○□□○□□
魔晶石5点x2	○□□○□□
所持金	394 G
預金・借金	G

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	18 m	54 m	2d+ 4	2	20
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP	
2d+ 3	2d+ 7	2d+ 5	2d+ 7	18	

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	チョーカー 『ちやっぴー』と書かれた札が下がっている
背中	
右手	
腰	
足	
その他	

装備品	説明
左手	

— その他メモ —

蛮族の村、何の変哲もなく迫害されているコボルドの集落に産まれる。当たり前のように親の顔は母親しか知らない。この村のコボルドなら良くあることだ。幼少の頃、魚を釣り上げているグレムリンを見かけ、棒に紐をつけて水の中に入れて魚が取れると勘違い。それ以降、プロキオの日課は針もエサもない状態での魚釣りとなる。もちろん魚が釣れるはずはないのだが、毎日続けていたため、竿にくくりつけていた紐に水藻が育ち、奇跡的にそれをエサにしようとしたカニが釣れる。カニが食べると知らない子供のプロキオは、そのカニに『アクベス』と名前を付け、自身の友達にしようとして家に持ち帰った。その日の夕食はカニだった。カニが食べられることを知ったプロキオは、またひとつ賢くなったと思った。食事を終えるとなぜかアクベスはいなくなっていた。きっと自分の家へ帰ったのであろうと思った。そしてアクベスは友人であるから、きっとまた会えるとも思った。

月日はたち、生まれてから4度目の冬を越えた頃。村に珍しく人族がやってくる。そして、プロキオを指さし母親へ銀貨袋を渡していた。

自動失敗
チェック
□□□□⑤
□□□□⑩
□□□□⑱
□□□□⑳
□□□□㉑
□□□□㉒
□□□□㉓